



二度と戻らない小学校生活

副校長 高城 剛

10年に1度の大雪が日本列島を覆い、各地で被害が報告されています。被害にあわれた方にはお見舞い申し上げます。青葉台小学校も冷え込みが厳しくて、廊下に出ると津々と体が冷えてきます。職員室前の黒メダカの池やプールも凍ってしまい、子どもたちがめずらしそうに集まって見にきています。そんな中、校舎4階の窓から見える景色は最高です。丹沢山系が横たわり、その向こう側に真っ白な雪をかぶった富士山が見えます。1年の中でも空気が乾燥して鮮やかにくっきり見えます。大雪予想の報道があったときは、校庭での体育は中止にした方がよいのか心配もしましたが、日差しがまぶしく風もなかったので通常通りに授業を行いました。現在、全校で「青小ぐんぐんランニング」という体づくりの運動に取り組んで走っています。この寒さの中ですが、自分のペースで走り、体がぽかぽかに温まる様子が見られます。寒さに負けない健康づくりにつなげていきたいと思えます。

6年生の教室には卒業までのカウントダウンが掲示されていました。子どもたちの手作りで、「いよいよ卒業だな。」と感じさせられました。6年生のみなさんは残りわずかの小学校生活をどのように過ごそうと思っているのでしょうか。私にとって45年前のことですが、あの時の感情はよく覚えています。

「残された時間少しでも多く、クラスの友達と仲よく遊びたい。」という強い思いがありました。放課後の校庭でドッジボール、鬼ごっこ、石けりなど、先生に「早く帰りなさい」と注意されるまで遊んでいました。帰った後も公園や駄菓子屋や神社に集合して暗くなるまで遊んでいて、親から叱られたこともたくさんありました。

「学校生活をきちんと終えよう。」と思いました。特に自分は給食委員会の委員長だったので、毎日の献立の掲示の仕事を忘れずに行いました。緑、黄色、赤の食物の分類表をまとめました。

「思い出の品物をみんなに作りたい。」と思いました。担任の先生の「前の学校では写真クラブの人たちがクラスの写真を撮ってパネルにして配ったんだよ。」という話に刺激を受け、パネルづくりに取り組みました。新宿まで印画紙、薬品、パネルの買い出しに行き、理科室の暗室に閉じこもり、46人分のパネルを作成して、卒業式直前に配ることができました。そして、3月31日の夜、ラジオの時報を聞き、小学生最後の瞬間を迎えました。「ああ、これで自分は小学生でなくなったんだ。もう子どもではないんだ。」とさびしさを感じながら眠りについたことを今でも鮮明に覚えています。

6年生の皆さん。時間は1秒たりとも戻りません。残り僅かの小学校生活を充実させ、思い出に残る時間を過ごしてください。